

各発育ステージにおける精密栄養管理による 肉用鶏の温暖化適応技術の開発

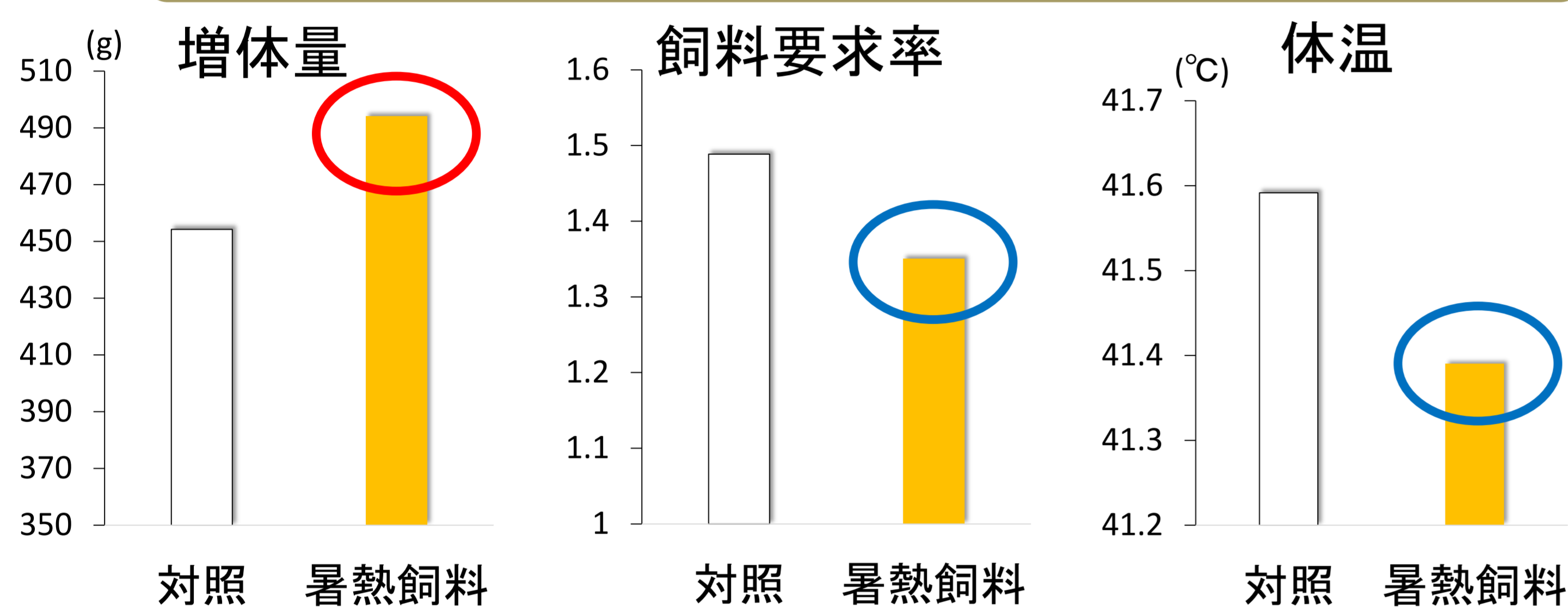


CHIBA

千葉県畜産総合研究センター

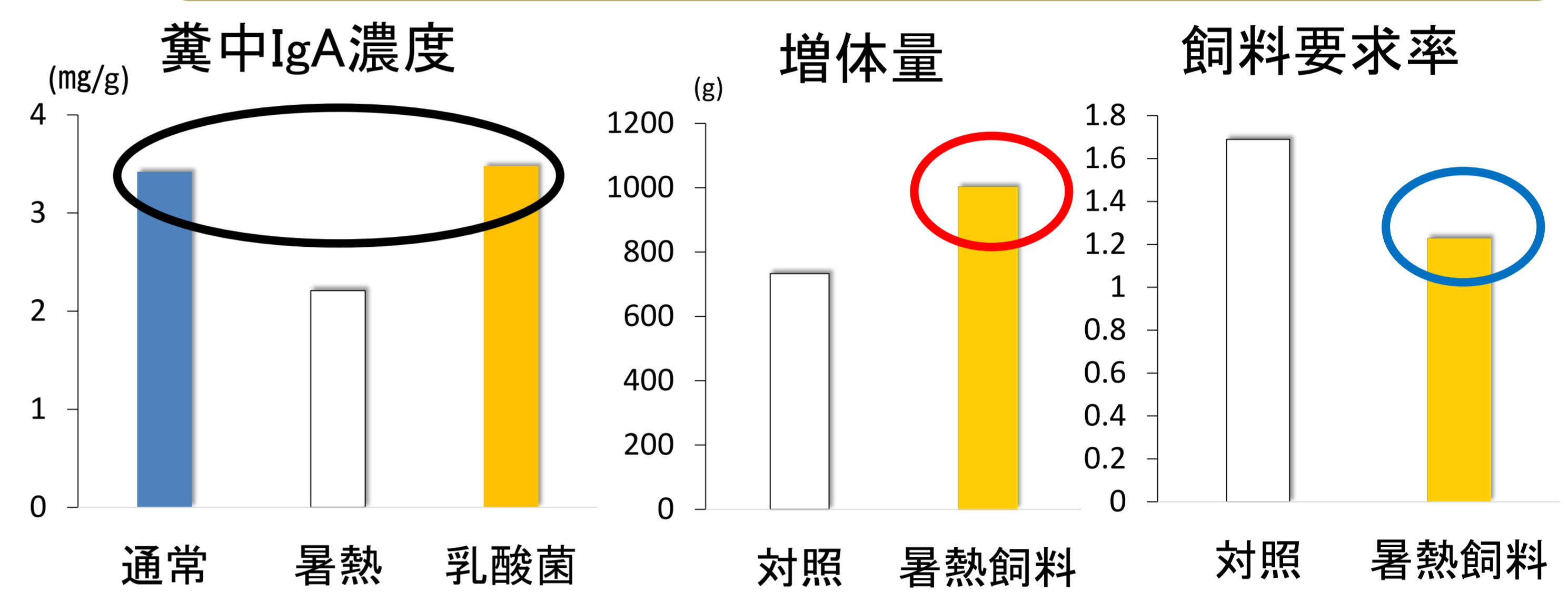
暑熱環境下のブロイラーに、肥育前期は体内での熱産生の小さい低蛋白・高エネルギー飼料に乳酸菌を添加したものを給与すると、増体量低下を抑制できます。また、肥育後期は摂取量が低下しても要求量を満たすことのできる高蛋白・高エネルギー飼料を給与することで、経済的被害を軽減できます。

1 肥育前期(～24日齢)の最適栄養水準



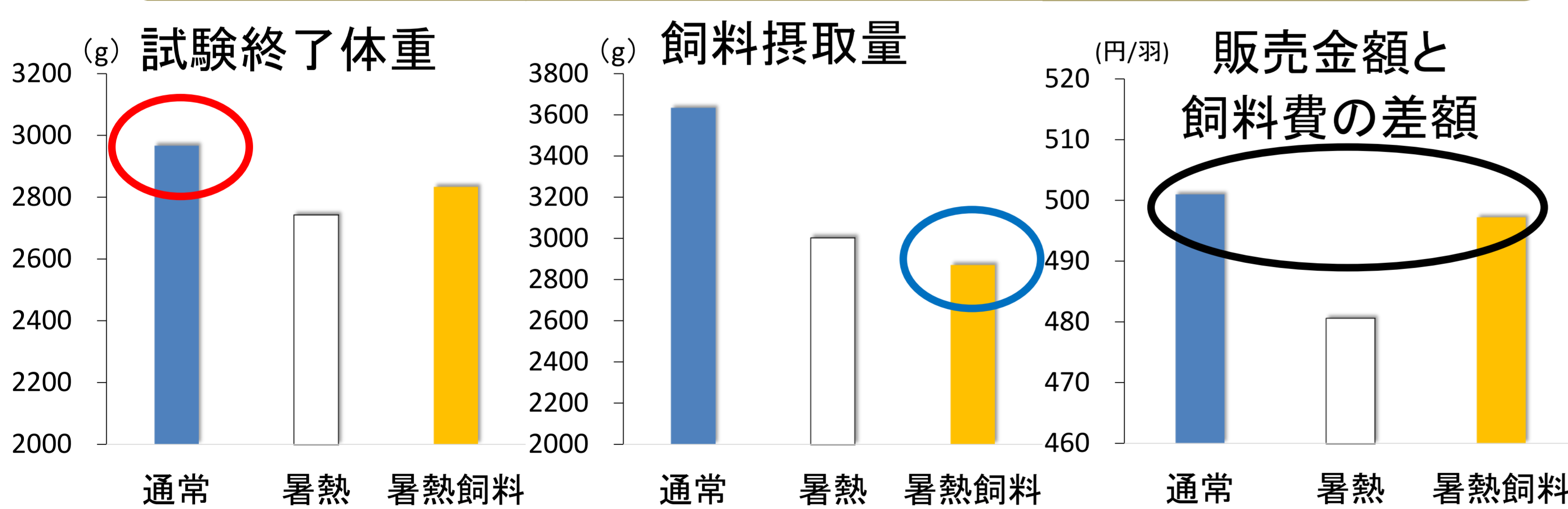
暑熱環境下の肥育前期ブロイラーに、粗蛋白質含量を20%に下げ、代謝エネルギー含量を3,255Kcal/kgに上げた飼料を給与すると、前期発育成績のうち、増体量と飼料要求率で標準飼料を給与した対照区に比べて良好となる傾向を示しました。体温は対照区より低くなり、体内の熱産生で有利な低蛋白・高エネルギー飼料の有効性が示されました。

2 乳酸菌(バチルス コアグランス)の効果



暑熱環境下のブロイラーに、熱や酸に耐性のある有孢子乳酸菌(バチルス コアグランス)0.01%を飼料に添加し給与すると、暑熱による免疫力低下の抑制効果がみられました。また、前期暑熱飼料に0.02%添加し給与すると、増体量と飼料要求率で標準飼料を給与した対照区に比べて良好な値を示し、組み合わせることで増体量低下を抑制できることが確認できました。

3 肥育後期(25日齢～)の最適栄養水準



暑熱環境下の肥育後期ブロイラーに、粗蛋白質含量を21%に上げ、代謝エネルギー含量を3,360Kcal/kgに上げた飼料を給与すると、販売価格と飼料費との差額が通常環境下で標準飼料を給与した対照区と同等となり、暑熱による経済的被害軽減の可能性が示されました。体重増で気温の影響を受けやすい後期において、摂取量が落ちても要求量を満たすことのできる高蛋白・高エネルギー飼料の有効性が示されました。



ケージ試験の様子

平飼い試験の様子

● 普及・社会実装への道筋

